

令和7年9月30日（火曜日）

豊後大野市立千歳中学校 戸次 武蔵先生の授業です。

授業の単元は、第2学年「1次関数」。線香が燃えつきるまでの時間を、1次関数を用いて考察する場面です。

導入では、同僚の理科教員が実験する様子を撮影した動画をもとに問題を提示し、生徒の学習への意欲を高める工夫がなされていました。生徒とのやり取りを丁寧に行い、動画から読み取ることのできなかった線香のものと長さや線香が燃える時間と燃えた長さなどの条件を確認し、本時で扱う日常の事象を数学の舞台に乗せることができていました。

また、「努力を要する状況」にある生徒への手立てとして次の2つを事前に準備していました。1つ目は、本時で重要な考え方である表、式、グラフ、それぞれのヒントカードを準備し、机間指導を通じて困りを抱えている生徒それぞれに合ったものを提示していました。2つ目は、本時では、表、式、グラフを関連させて考察していくことが必要であることから、以前行った授業の板書写真を大型スクリーンに映すなど、生徒が自らの考えをもてるような工夫がなされていました。

事後研では、問題解決をする際に焦点化を図る場面において課題を設定することで追究すべきことが明確になること、本時のゴールを生徒と共有することの重要性等について確認しました。

戸次先生は自らの授業力を高めるために、小中一貫校のよさを生かし、小学校のベテラン教員の算数の授業を参観するなど日々努力を行っているようです。

ぜひ、今後もこの意欲的な姿勢で自己研鑽に努め、若手教員の見本となってほしいと思います。

